

IV

派遣事務報告



派遣事務報告

派遣団総務 佐野 晶子

(公益財団法人日本体育協会スポーツ振興部クラブ育成課)

◆ 派遣準備（出発まで） ◆

(1) 派遣団員の募集・決定

○4月24日（火）

- ・都道府県体育（スポーツ）協会に対し、派遣団員の募集通知を送付する。

○6月1日（金）

- ・派遣団員の募集を締め切り、結果、20道府県体育協会より29名の推薦を受け付ける。

○6月13日（水）

- ・選考委員会において、以下3点の選考基準に基づき、派遣団員の選考を行った。

①日本体育協会公認マネジメント資格（公認クラブマネジャーもしくは公認アシスタントマネジャー）の保有者であること

②地域別（所属都道府県）のバランス（過去の派遣実績を含む）

③活動状況等

- ・平成24年度第1回地域スポーツクラブ育成専門委員会において、13名の派遣団員を内定した他、不測の事態に対応するため3名の補欠者を選出した。

また、派遣団団長に高橋三郎氏（SC全国ネットワーク東北ブロック代表常任幹事／チャグチャグスポーツクラブ（岩手県）副会長）を、派遣団総務に佐野晶子（スポーツ振興部クラブ育成課）をそれぞれ決定した。

○6月19日（火）

- ・内定者13名、補欠者3名、非内定者13名、派遣団員の推薦があった20道府県体育協会に対し、内定通知、補欠通知、非内定通知を送付した。

○7月31日（火）

- ・渡航にかかわる航空券・宿泊先・移動手段の手配業者を見積もり合わせにより選定。結果、日本通運株式会社（現・日通旅行株式会社）に依

頼することが決定した。

(2) 事前研修会の開催

○7月9日（月）

- ・団長、内定者13名に対し、事前研修会の開催案内を送付した。

○9月3日（月）～4日（火）

岸記念体育会館内の理事・監事室において事前研修会を開催した。北海道教育大学岩見沢校准教授／本会地域スポーツクラブ育成専門委員会中央企画班員の山本理人氏から「ドイツのスポーツ振興・スポーツクラブについて」と題して、ドイツのスポーツ組織、スポーツクラブの概要を講義いただき、また平成23年度派遣団長の伊端隆康氏（SC全国ネットワーク副幹事長／るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」（北海道）クラブマネジャー）、同団員の若藤美紀氏（清流クラブ池川（高知県）ゼネラルマネジャー）より、平成23年度のドイツ研修での様子等をお話いただいた。渡航先でのプログラムを効率よく進めるために有意義な研修となった。

また、派遣日程、研修内容、役割分担、渡航に係る諸準備等についても確認を行った。

○9月10日（月）

- ・事前研修会を修了した内定者13名及び当該推薦道府県体育協会に対し、派遣団員決定通知を送付した。

(3) その他

○4月～10月

- ・派遣に係る諸準備（土産品購入、派遣団メンバーリスト作成、通訳依頼、傷害保険加入手続き、旅行代理店との打合せ等）を行った。
- ・ドイツでの受け入れ先であるライン・ノイス郡スポーツ相談課と日程、研修内容等についてそ

の都度調整した。

◆ 派遣期間（研修時） ◆

○10月15日（月）

【内 容】最終打合せ・結団式

【宿泊先】ホテル日航成田

15時、東京・岸記念体育会館に派遣団員が集合し、日程、役割分担、携行品、お土産の仕分け等の最終確認を行い、引き続き結団式を行った。

16時10分に成田に向けて出発。17時過ぎに宿泊先であるホテル日航成田へ到着し、チェックイン。その後、ホテル内レストランでの夕食にて、無事に研修が終わることを祈って乾杯し、研修への想いをそれぞれ語り合った。

○10月16日（火）

【内 容】ドイツ・グレーヴェンブローイヒへ向けて出発（成田空港⇒ヘルシンキ空港⇒デュッセルドルフ空港）

【宿泊先】Hotel Sonderfeld

（グレーヴェンブローイヒ）

8時40分にホテル日航成田を出発し、バスにて成田空港へ向かった。空港では日通旅行スタッフの指示に従い搭乗手続きを行い、荷物の計量も無事クリアして出国審査等を済ませ、11時00分発フィンランド航空074便にて経由地であるヘルシンキ空港へ向けて出発。9時間以上のフライトの後、ヘルシンキ空港では、短い乗り継ぎ時間の中、慣れない税関やEU圏内への入国審査に戸惑いながらも通過し、現地時間16時30分発フィンランド航空707便にてデュッセルドルフ空港へ向けて出発。現地時間17時55分に到着、空港にて本研修の受け入れをご担当いただくアクセル・ベッカー氏（ライン・ノイス郡スポーツ相談課）と通訳の松尾喜文氏の出迎えを受けた。空港からはベッカー氏に手配いただいたバスにて、グレーヴェンブローイヒにある宿泊先・Hotel Sonderfeldへ向かった。ホテルへのチェックインを済ませ、夕食はグレーヴェンブローイヒの街中にある伝統的なドイツ料理店(Haus Porz)へ。本場のドイツビール、ボリュームのあるドイツ料理を堪能し、長い一日を終えた。

○10月17日（水）

【内 容】表敬訪問・講義①②③・クラブ視察①

【宿泊先】Hotel Sonderfeld

いよいよ研修がスタート。この日からお世話になる通訳の多田茂氏と合流し、講義会場であるライン・ノイス郡庁舎に向かった。ヨーロッパを実感するグレーヴェンブローイヒの街中の風景をそれぞれカメラに収めつつ、10分程度の徒歩での移動となった。

講義前に表敬訪問として、ユルゲン・シュタインメッツ氏（ライン・ノイス郡副郡長）、トーマス・ラング氏（ライン・ノイス郡スポーツ連盟理事長）、相馬安行氏（在デュッセルドルフ日本国総領事館首席領事）の3名からそれぞれ歓迎のごあいさつをいただき、全員での記念撮影を行った。



表敬訪問の様子を伝える地元新聞

講義①では、アクセル・ベッカー氏より「ライン・ノイス郡のスポーツ」をテーマに、ドイツやライン・ノイス郡におけるスポーツの現状とスポーツ振興について講義いただいた。

続く講義②では、グレゴール・ナインティ氏（パスカル高校教諭／ライン・ノイス郡学校スポーツ委員会アドバイザー）より、「スポーツクラブと小学校の連携」をテーマに、ドイツにおける教育制度の変化に伴うスポーツクラブにとっての問題点やその対応、スポーツクラブと小学校が連携することのメリットについて講義いただいた。

講義②終了後、講師の先生方と共に庁舎近くの食堂にてランチミーティングを行い、次の講義が行われるコルシェンブローイヒへバスで移動した。

元ビール醸造場であったという歴史を感じるコルシェンブローイヒ市スポーツ課の事務所に到着。

講義③はスポーツ課事務所において、ハンス・ペーター・バルター氏（コルシエンブロイヒ市スポーツ課長）より、「自治体のスポーツ振興」として、行政からのスポーツクラブへの支援や現状の課題、今後の在り方について講義いただいた。

続いて、最初の視察クラブとなるコルシエンブロイヒシニア世代スポーツクラブへ移動。クラブハウスにて、理事の方々よりシニア世代をターゲットとしたクラブならではの視点で行われる活動、取り組みについてお話しいただいた。その後、近隣の体育館へ移動し、ドイツボウリング「ケーゲル」を理事の方々に教えていただきながら、一緒に楽しんだ。体育館併設のレストランから提供される食事をとりながらのケーゲルは、様々な工夫されたルールによりゲームを重ね、最後にはストライク合戦となるなど、大いに盛り上がった。

○10月18日（木）

【内 容】講義④⑤⑥・クラブ視察②③

【宿泊先】Hotel Sonderfeld

研修2日目は、団員の緊張もほぐれリラックスした雰囲気の中、講義会場のライン・ノイス郡庁舎に向かった。

講義④では、アクセル・ベッカー氏より「スポーツクラブの健康志向コース」をテーマに、最近のドイツのスポーツクラブにおける会員の年齢構造の変化を背景とした、健康志向やフィットネスプログラムの動向について講義いただいた。

続いての講義⑤では「クラブマネジメント」をテーマに、ノイス市スポーツ連盟事務局長のゲスタ・ミュラー氏に、スポーツクラブの実際の運営やその課題、市スポーツ連盟としてのサポートの在り方について、質疑も交えつつ講義いただいた。

研修初日と同じ食堂でランチミーティングを行った後、午後の講義⑤では、フォルカー・リットナー氏（ケルンスポーツ大学特任教授）より「社会の発展とスポーツ」をテーマに、ドイツの社会におけるスポーツとスポーツクラブの役割について、社会学的な分析をもとに講義いただいた。

講義終了後、2つ目の視察クラブであるTUSグレーヴェンブロイヒへ徒歩で向かった。このクラブは2011年に創立100周年を迎えた歴史あるク

ラブであり、クラブハウスにはクラブの紋章、多数のトロフィーや他クラブのペナント、数々の過去の写真が飾られ、歴史あるクラブのゲスト訪問帳、そしてビールサーバーの付いたカウンターがあり、「100年続く地域のクラブ」として思い描いていた光景を目の当たりにした。陸上トラックやサッカーグラウンド等多くの施設がクラブハウスに面しており、テラスからサッカーを練習する子どもたちを眺めながら、理事の方々よりクラブの活動について説明いただいた。

その後、ホテル近くにあるオルケン体操クラブを訪問した。このクラブも創立100年を超える歴史あるクラブであり、趣のあるクラブハウス、会員自らが建てたという体育館等の施設を見学させていただいた。施設見学時に行われていた柔術教室では、日本の伝統武術が遠く離れたドイツでも熱心に取り組まれていることが興味深かった。説明を受けた後は、クラブ理事や会員の方々と夕食懇親会が行われた。ここのクラブハウスにもビールサーバーの付いたカウンターがあり、会員の方々がご用意下さったバーベキュー料理を堪能しながら、「クラブハウスに仲間が集まり交流を深める」という“クラブライフ”を体験することが出来た。さらには、理事長も加わっているクラブの音楽隊からの見事な演奏のプレゼントをいただき、非常に感動した。お礼として、お土産に用意していた手拭いを理事や会員の方々に配り、一緒に鹿児島県の伝統踊り『おはら節』を踊るなどして大いに盛り上がり、楽しい交流の時間を過ごすことが出来た。

○10月19日（金）

【内 容】講義⑦・クラブ視察④⑤

【宿泊先】Hotel Sonderfeld

この日は朝からバスにてドルマーゲンへ向かい、4つ目の視察クラブであるTSVバイヤードルマーゲンを訪問した。このクラブは製薬会社のバイヤーがスポンサーであり、広大な敷地に屋外の温水プール、屋内陸上トレーニング施設、ブンデスリーガも開催される観客席の付いたハンドボールコート等多くの施設を抱えており、充実した環境に圧倒させられた。その各施設をアクセル・

ヴェルツ氏に案内いただき、その後引き続き同氏にクラブと学校の連携、タレント発掘等トップ選手の育成方法、スポーツクラブのプログラムをビジネスとしてのサービスに応用する方法等、ドイツでも最先端のスポーツクラブの取り組みについて講義いただいた。

クラブ敷地内のレストランにおいて昼食をとった後、バスにてノイスへ向かい、5つ目の視察クラブであるBVヴェックホーフエンを訪問した。このクラブでは、風格あるレンガ造りのクラブハウスにて手作りのパイとコーヒーをいただきながら、クラブの組織や運営の状況、全日制への移行に伴う学校に対するクラブとしての働きかけなど抱える課題について、説明いただいた。また、理事長のトーマス・ラング氏はライン・ノイス郡スポーツ連盟の理事長でもあることから、郡スポーツ連盟の役割や存在意義、今後の展開、子ども達をオリンピックへ連れて行くといった特徴的な取り組みについても話を聞くことが出来た。

バスにてホテルに戻った後、本研修をコーディネートしていただいたお礼として、日本派遣団主催による答礼夕食会を開催した。夕食会には、ベッカー氏をはじめリットナー氏等講師の方々、通訳の多田氏、松尾氏にもご出席いただき、本研修に対するお礼を申し上げた。夕食会の最後には、ベッカー氏、リットナー氏から研修の修了証を各団員にいただき、大きな思い出となった。

ここで、ドイツ到着後からこの日までずっとお世話になったベッカー氏とお別れとなり、団員それぞれが別れを惜しみつつ、感謝の意を伝えた。

○10月20日（土）

【内 容】

ケルン市内見学・サッカーブンデスリーガ（バイヤー・レヴァークーゼン対マインツ）観戦
【宿泊先】 Hotel Düsseldorf Mitte
（デュッセルドルフ）

翌日の帰国に備え、宿泊先をデュッセルドルフ空港付近へと移すため、荷物をまとめてからの出発となった。前日までお世話になった通訳の多田氏とはここでお別れとなり、研修におけるご協力に対して感謝申し上げた。

バスにてケルン市内中心部へ移動。2時間程度のケルン市内見学は自由行動とし、ケルン大聖堂やライン川、ケルンの街並みの見学等、団員それぞれが思い思いに楽しんだ。

昼食後、バスにてレヴァークーゼンへ移動し、バイ・アレーナにてサッカー・ブンデスリーガ（バイヤー・レヴァークーゼン対マインツ戦）を観戦した。本場のサッカー専用スタジアムでの迫力あるサッカー観戦に団員一同興奮し、またこのチームも元々は地域クラブの一部であることを知り、ドイツのクラブの歴史の深さに感嘆した。

興奮冷めやらぬまま、宿泊先のあるデュッセルドルフへバスにて移動。ホテルへチェックインした後、夕食を取るために近くのレストランへ。ドイツでの最後の夜を楽しみ、クラブへの熱い想いを語り合う時間となった。

夕食後、通訳の松尾氏とお別れとなり、本研修におけるご協力に対して感謝申し上げます。

○10月21日（日）

【内 容】

日本・成田空港へ向けて出発（デュッセルドルフ空港⇒ヘルシンキ空港⇒成田空港）

帰国のため、バスにてデュッセルドルフ空港へ向かった。空港での搭乗手続きは日通旅行現地スタッフのご協力により荷物の重量オーバーも派遣団全体で調整することで無事に終え、12時10分発フィンランド航空704便にてヘルシンキ空港へ。ヘルシンキ空港には15時30分に到着。出国審査もスムーズに通過し、17時15分発フィンランド航空073便にて成田空港へ向かった。

○10月22日（月）

【内 容】 成田空港到着・解散

10時間余りのフライトの末、日本時間8時55分に成田空港に到着。タイトなスケジュール、移動により、団員からは疲れた表情が窺えたが、全ての団員が大きなトラブルもなく無事に帰国出来た。

最後に、到着ゲートにて高橋団長よりあいさつがあり、研修の全日程が終了。全員笑顔での解散となった。

「とどけよう スポーツの力を東北へ！」
平成 24 年度公益財団法人日本体育協会
クラブマネジメント指導者海外研修事業 実施要項

1. 趣 旨：

生涯スポーツ社会の実現に向け、生活圏域における日常的なスポーツ活動の拠点となる総合型地域スポーツクラブが育成・発展していく上で、地域スポーツクラブ先進国における地域スポーツクラブ発展の意義や歴史、クラブ運営のノウハウ、クラブ育成システム等を検証し、我が国における今後の地域スポーツクラブの発展・充実に資するものとする。また、既に設立された総合型地域スポーツクラブにおいて活動するクラブマネジャー等の資質向上と活動促進を図ることを目的とする。

2. 派遣者：公益財団法人 日本体育協会

3. 派遣人員：15名（団長1名、総務1名、団員13名）

4. 派遣期日：平成24年10月16日（火）～10月22日（月）（5泊7日） *10月15日（月）前泊

5. 派遣先：ドイツ連邦共和国 ノルトライン・ヴェストファーレン州

6. 研修内容：（1）ドイツの生涯スポーツ振興施策
（2）ドイツの地域スポーツクラブの現況と課題
（3）ドイツの地域スポーツクラブマネジメント
（4）ドイツのクラブマネジャー養成システム

7. 経 費：派遣団員は個人負担金として18万円を日本体育協会へ納入する。
派遣に関わる下記の経費は、日本体育協会が定めるところにより負担する。
（1）旅費（集合、離散に関わる国内交通費、前泊に伴う宿泊費）
（2）渡航費（但し、パスポートの取得に関する諸経費は自己負担）
（3）旅行傷害保険
（4）ドイツ滞在中の基本的経費（宿泊費、移動バス代等）
（5）研修に関わる諸経費（通訳・講師謝金等）

8. 派遣資格：平成24年4月1日現在20歳以上で、下記のいずれかの条件を満たす者
○本会公認クラブマネジャーまたはアシスタントマネジャー資格取得者で、現に総合型地域スポーツクラブにおいて、運営に携わっている者
○日本体育協会が上記条件を満たすことと同等であると特別に認めた者
*なお、団長、総務については本会が別途、人選するものとする。

9. 推薦方法：

所定の推薦方式により、加盟都道府県体育協会等を通じて、平成24年6月1日（金）までに本会宛提出する。

10. 派遣団員の決定：

応募締切後、本会において審査の上派遣団員を内定し、本人および当該加盟都道府県体育協会等へ通知する。その後開催する事前研修会への参加を経て、派遣団員として決定し、本人および当該加盟都道府県体育協会等へ通知する。

11. 公認スポーツ指導者資格更新のための研修：

この研修会は、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者登録規程第4条に定める資格登録更新のための義務研修の一つとなっている。

PHOTO SNAP

10月15日～16日



結団式



ヘルシンキ経由デュッセルドルフへ



グレーヴェンブロイヒの街並み



夕食会場（ドイツ料理店）



盛りだくさんのドイツ料理

10月17日



ライン・ノイス郡庁舎



記念品を贈呈（左：ユルゲン・シュタインメッツ副郡長）



移動風景（コルシェンブロイヒ市）



講義の風景（ライン・ノイス郡庁舎）



講義の風景（コルシェンブロイヒ市スポーツ課）



10月17日



コルシエンプロイヒニア世代スポーツクラブの建物



メトライクを狙って



理事の方々と懇親

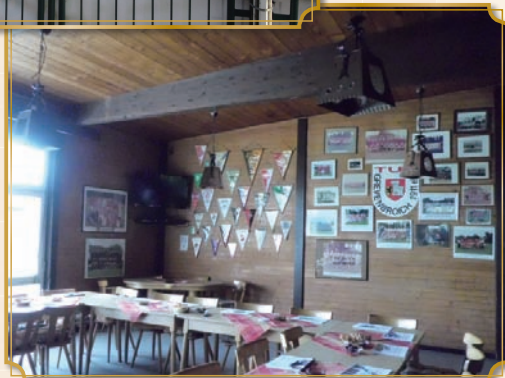
10月18日



◀クラブハウステラスからの風景
(TUSグレーヴェンブロイヒ)



クラブの方々と (TUSグレーヴェンブロイヒ)



クラブハウスの内部 (TUSグレーヴェンブロイヒ)



TUSグレーヴェンブロイヒ理事長と理事、
通訳の松尾氏



ゲストブックに記帳



クラブハウス (オルケン体操クラブ)



活動風景 (オルケン体操クラブ)



10月18日



鹿児島おはら節を全員で



クラブの音楽隊による歓迎演奏

10月19日



広大な敷地に驚く (TSVバイヤードルマーゲン)



◀活動風景
(TSVバイヤードルマーゲン)

▼サッカーグラウンド
(TSVバイヤードルマーゲン)



◀本研修コーディネーター・
ベッカー氏と通訳の
多田氏

歴史を感じるクラブ
代々の写真
(BVヴェックホーフェン)



▼クラブハウスと
サッカー場
(BVヴェック
ホーフェン)



▼クラブ説明風景 (BVヴェックホーフェン)



10月19日



グレーヴェンブロイヒ近郊の炭鉱



答礼夕食会での修了証授与

10月20日



ケルン大聖堂



ブンデスリーガ観戦



盛り上がるスタジアム



本場の雰囲気興奮



◀バイヤー・レヴァークーゼン
スポーツクラブ部門の看板

▼スタジアム隣接の練習グラウンド



10月21日~22日



FINNAIRで帰国



平成24年度 公益財団法人日本体育協会
クラブマネジメント指導者海外研修事業
報告書

発行日 平成25年3月25日
発 行 公益財団法人日本体育協会
〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館
TEL 03-3481-2278
印 刷 ホクエツ印刷株式会社